

統覚・観察に拠らない知識・超越論的シンタクス

－ Kant、Wittgenstein, J.=Y. Girard の意味理論を接続する

岡本賢吾（東京都立大学）

哲学と論理学の古来からの緊密な結びつきは、19 世紀後半以降、数学による論理学の再構成が進んだことにより大幅に希薄化した。さらに前世紀中盤以降のコンピュータ科学の急速な発展により、狭義の論理や数学からも自立した計算理論をベースとする情報科学が近年大規模に確立されつつあり、そこでは論理・数学・情報諸科学と哲学の結びつきはますます疎遠となっている。しかし Girard らが展開する現在最も先端的と言える計算機科学基礎論（線型論理）の分野では、Wittgenstein はもとより Kant にまで遡る哲学（意味理論）の伝統がシリアスな検討対象として熱心に議論されている。本発表は、そこでのポイントを基本から紹介しつつ、今後の発展の可能性を考察する。